

ほのぼの

第32号

平成24年

11月

発行

神戸市須磨区戒町1-2-3

TEL. 078-732-5209

信行寺門信徒会



耳のしごと

住職

一時、胎教ということが、流行った時代がありました。母親の胎内にいる時から、音声は聞こえているということで、クラシックの名曲などを胎内の赤ちゃんに聞かせる。そうすると、情緒の安定した「いい子」が生まれるということでした。

音楽だけではありません。お念仏の声も同じはたらきをします。世界的な医学者で、念仏者であった京都大学の東昇先生が、「私をはじめしてお念仏を聞いたのは、お母さんの胎内にいたときでしょう」と生前におっしゃられたそうです。熱心な念仏者であったお母さんのお念仏の声に育てられた先生の実感ではないでしょうか。

また、耳は意識がなくなっても、死ぬる最後まで聞こえているそうです。そうしますと、母親の胎内にいるときから、死ぬる際まで聞こえていることになります。

眼・耳・鼻・舌・身の五種の感覚能力と、意識という知覚能力は、「危険を察知して、自分の身を守り、人生をこころ豊かに過ごすため」の保全機能です。

眼と耳を比べてみると、眼は自分の意志で「見る、見ない」ができますが、耳にはその選択はできない。眼は誕生して直ぐには見えない。見えるようになるまでにはかなりの時がかかりますし、眼は耳より先に死んでゆきます。

死に際では、声は聞こえていても、眼前が暗くなり、見えなくなります。だから、人間の感覚器官で、人生の最初から最後まで力を発揮しているのは「耳」です。

耳は、音声に対しています。声はことばです。聞くものです。ことばは、その人の「こころ」を伝えるのに最適です。声は最初、音声として耳に感じます。次に、その音声の意味が知られ、そこにこめられている「こころ」が伝わります。そして「こころ」が伝わると、声の主のこころに従うこととなります。これを「聞く」といいます。

「聞く」ことは、自分にはない智慧をもらうことでもあります。聞かなければ、「自分は知っている、自分は偉い、自分は悪くない」という、自分だけの狭く誤った考えに陥ります。

夢は覚めてこそ夢です。覚ましてくれるのが「阿彌陀さまの呼び声」です。覚めなければ「何をしたらよいか、どこに向かって行ったらいいのか」人生の行く末が分かりません。

耳にはふさぐ蓋がついていません。それは阿彌陀さまの御慈悲のこころが、臨終の際であっても、伝わるようになっていないのでしょうか。

お彼岸に想う

副住職

彼岸というのは仏教のことばで涅槃といい悟りの世界（お浄土）のことです。

分かりやすく言えば苦しみのない世界ということ

とです。私たちのいる此岸は苦しみの尽きない世界であり、だれもが幸せを望みながら苦しみを経験せざるをえません。それは私たちの心に原因があると釈尊は説かれます。私たちが日常生活で体験する楽しみは、永續するものではなく時が経つにつれ苦に変わり消滅してしまいます。美味しいものも食べ過ぎると苦になり、お酒も飲み過ぎれば苦になる。お金も有りすぎれば、今度は取られるのでは、と不安がつつのり苦の原因になります。私たちが幸せの要因と考えているものも、苦しみの原因に変わるといふことです。

先日「happy しあわせを探すあなたへ」という映画をみました。世界5大陸を巡って人生最大のテーマである「幸せ」を探すドキュメンタリーです。一般的に幸せの要因と思われるがちな財産や地位名誉などと比例して、幸福度は上がらないことが調査や研究で分かってきた、と心理学や精神医学の先生が語っていました。それよりも、行為そのものに充実感をもてる趣味や仕事を持っていること。家族や友人などに恵まれ、その関わりのおかげで充実感をも

っていること。地域や自分が所属しているコミュニティに貢献し、人に喜ばれるような行為ができていくという実感のあること。この3つが幸福度の高さに関係しているということでした。戦後、経済大国となった日本は幸福度では最低水準ということでした。過労死の問題など悲しい事実がクローズアップされていきました。しかし同時に沖縄の長寿で有名な村が幸せな村として取りあげられていきました。

その人達は畑で汗を流し、お年寄りから幼子までがひとつの家族のように親しみと助け合いの心でつながっていました。共に生きる、生かされているという実感が人間にとつてとても大切なことだと改めて考えさせられました。

釈尊がそうであったように「どのよう
に生きるべきか、
本当の幸せとは何
なのか」それを問う
ことは、仏教の出發
点です。



領解文のこころ

住職

毎月の「護法会」の法座の終わりに、「領解出言」(りようげしゅつごん)ということで、全員で申させてもらっていますのが、蓮如上人の作と伝えられています「領解文」(りようげもん)です。

これを聞きますと、幼少にわたしの祖母が仏前で、「もろもろの・・・」と申していたのが昨日のように懐かしく思われます。

「領解文」には、浄土真宗の門信徒の信仰と日常生活の心得が丁寧に記されています。

①【諸々の雑行雑修自力の心をふり捨てて

一心に 阿弥陀如来

我らが今度の一大事の後生

御たすけ候へとたのみ申して候

たのむ一念のとき

往生一定 御たすけ治定と存じ】

②【この上の称名は

御恩報謝と存じよろこび申し候】

③【この御ことわり聴聞申しわけ候こと

御開山聖人御出世の御恩

次第相承の善知識のあさからざる御

勸化の御恩と ありがたく存じ候】

④【この上は 定めおかせらるる御掟

一期を限り守り申すべく候】

①の段は、浄土真宗の「安心」(信心のこと)をしめされています。浄土真宗では、これを「ご安心、ご信心」と「ご」の字をつけて呼びます。それは自分の思いを固めて、自分でこしらえた信心ではなく、「如来よりたまわりたる信心」であることを表わしています。だから、自分の才能、能力をあてにしている「雑行雑修自力の心を捨てよ」といわれるのです。

どのようなことがあっても、必ずわれらを「攝取して捨てない」仏さまを、阿弥陀如来ともうします。阿弥陀如来は、われらを「後生」、すなわち次の生

で必ず仏にしてくださいる力を既に成就しておられます。「必ず仏にするぞ、助けるぞ、まかせよ。われをタノメよ」と呼び続けておられる。

この阿弥陀如来の呼び声がとどいて、「一心」に「たすけ候へとタノム」になったのを他力の信心といえます。このとき浄土に往生し、仏に成ることが決定することを「往生一定、御たすけ治定」といいます。

次に、②称名について誤解のないようにさとされます。称名は、口で「南無阿弥陀仏」と称えることです。ですから、「称えた」ところに価値を見がちですが、親鸞聖人は南無阿弥陀仏の六字の名号に価値を見て称名を御恩報謝のお念仏であるとしめされます。③は、お念仏の仏法を今日まで伝えてくださった先輩の御苦労に感謝し、④は、日々の生活においては、世間のルールを心にかけて生きていく大切さを教えておられます。

阿弥陀さまが我らの全てを引き受けてくださる人生を見失うなよと、領解文は伝えておられます。

京都西大谷納骨参拝

信行寺では毎年十月第三日曜日に西大谷無量寿堂に納骨される方の参拝を行っております。今年は二十一日に新たに七人の方が納骨されました。

西本願寺を参拝し、引き続き大谷本廟へお参りしました。新たにご家族を納骨された方が「私も入るところがあるかしら」と心配されると、住職は「後百年は大丈夫」と言われ皆さんの笑いを誘いました。その後宇治の黄檗山万福寺で普茶弁当の昼食をおいしく頂き、僧侶のご案内で万福寺を参拝しました。宇治川沿いの散策を楽しみ、無事板宿に帰ってきました。良いご縁を頂きました。(空 早苗)



音色



中田 裕康

私が初めて二胡に出会ったのは今から三年前、信行寺の親鸞聖人七百五十回大遠忌法要のお手伝いをさせていただいた時です。記念演奏があり、二胡奏者 姜 暁艶（ジャン ショウイエン）さんの演奏でした。それは私にとって身も心も吸い取られる思いでした。今までは、「私の雑念」ばかりの人間でしたが、心を無に出来る音色に出会えました。私は、澄み切った湖のごとく心を洗われたように感じました。これを機にこの感動を一生の間持ち続ける事が出来ないだろうかと思い、いま二胡の練習に励んでいます。人に聴かせるような演奏ではありませんが日々精進しています。

現在、ボランティア活動でひとり暮らしの老人訪問を行っています。老人の話や聞くと、「早くお迎えが来て欲しい」と言われます。しかしこれが、逆

の言葉に聞こえてくるのです、何かに縋りたいように聞こえます。毎日感謝し、今日一日生かして頂く事を喜びに変えなければ、虚しい人生になってしまうのではないのでしょうか。

私が感動し、澄み切った湖のごとく心を洗われたように、この音色をすべての人に聞いて欲しい。そして、人によって違う観点から違った音色（青い鳥）を是非見つけて欲しいものです。



信行寺本堂に於いて大遠忌法要の記念演奏をされる姜暁艶（ジャン・ショウイエン）さん

お念佛のバトンタッチ

辻道 美智子

九月に百寿を迎えた母はお念佛を喜ぶ篤信の両親のもと、七人兄妹の次女として姫路に生まれました。

たった一人の兄は戦死し、妹が流行病の為、三日のうち二人も亡くなりました。その時は身内の葬儀が七つ続いたそうです。

また母は結婚後、生後間もない長女を亡くした上に、赤ん坊の私と兄を残して出征した父の戦死の公報を受けます。そんな厳しい環境の中をお念佛の教え一筋に生きてきました。決して甘い優しい母ではなかったですが、「人間は、佛様のお話を聞くために生まれてきたのですよ」と言って、幼い私を自転車に乗せ、あちこちのお寺へ連れて行ってくれました。

義姉が病死し、再び娘の私と暮らして九年になります。入退院を繰り返して赤ちゃんの様になった母を見ながら心の中でつぶやいています。「お母さんありがとう。あなたに教えていただいたお念佛の教えは、私がしっかり受け継いで、今度は私の娘に伝えていきますよ。安心して下さい。」
南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

百寿おめでとう

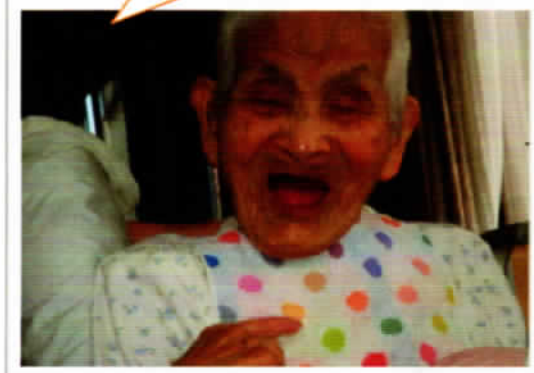
市役所の方、来訪時の喜びの表情。

グットタイミング、急いで

パチリ!!



川西市長
100歳祝辞
家族で記念写真



信行寺行事予定のご案内

報恩講法要

十二月二十二日（土） 若林真人先生

二十三日（日） 住職

二日間とも午後二時より四時まで
ご都合の良い日に合わせて一日
でもお参りください。

新春初法要

平成二十五年一月五日（土）

午後一時より 本堂にて

お正月をお寺で楽しく迎えましょう

お勤め、法話の後みなさんで楽しく語らい

ながら、ご馳走を頂きま
す。

*お世話の方々手作りのおいしい料理を持ち寄ってくださいます。



編集後記

今年「ヒッグス粒子」が発見されたり、「銀河系の形」が解ってきたりと、宇宙の謎が解明されてきました。でもいくら科学が進んでも、人間がどこから来たのかはまだ誰にも分かりません。私たちはなぜ生かされているのでしょうか。又どの方向へ歩んで行けば良いのでしょうか。限らない疑問です。でもこのたびの「秋の彼岸法要」の時に、彼岸||悟りの世界（お浄土）へ至らしめて下さる阿弥陀如来さまのおこころを聴聞させていただくことが出来ました。そして又いろんな行事でお寺にお参りに来られる沢山の方々とのご縁により、生活を豊かに広げる事ができる幸運にめぐり合われたと言うすばらしいお話もありました。

そういう日々の生活の中で、自分のこころを白紙にしてお念仏を味わいさせていただく事から答えを探して行けば良いのだと、改めて気付かせていただきました。

多田 清子

【ご報告】 正信偈の写経による義援金を仙台の被災寺院に住職が直接持参して、お見舞い申し上げました。